
ポリクリをおえて

ポリクリ実習を終えて

5年 前 田 真美子

時の経つのは早いもので、私達32期生は既に臨床予備実習を終え、最終過程となる総合診療室での本実習が始まり、数ヶ月が経ちました。5年間一緒に学んできた友人達との学生生活も、あっという間に終わりが訪れそうに感じる今日この頃です。

学年が上がる度に少しずつ臨床系の講義や実習内容が増えて、5年生になった時点では全ての教科を一通り学んだはずですが、それらはあまり身につけていなかった気がします。臨床予備実習が始まってから、自分の知識不足を改めて痛感しました。だからといって4年間を適当に過ごしてきたわけではありません。90分間黙って座っていればいような受身形の講義が多い中、やたら緊迫感のあった講義や学生参加型の講義など印象に残る講義もあり、その時に学んだ内容は今でも覚えているものです。結局は、ただ単に今までは「自ら学ぶ」という意志・姿勢が足りなかつただけなのかもしれません。

臨床予備実習では「自ら学ぶ」機会が多かったと思います。2クールに渡って少人数班での行動が主でした。何ごとにおいても、初めて経験する事には、必ずといってよい程、緊張と不安が伴うものです。まさに1クール目は全てが「初めて」だらけでした。各科の雰囲気戸惑いを感じ、それぞれ内容等を把握するのも時間もかかりました。ですから大抵実習前には自分の知識不足を補うために予習（復習）をして臨みました。

学生同士での相互実習は貴重な体験になったと思います。術者としての技術的な勉強というのは、

総合診療室での診療に始まり、患者さんを通してこれからずっと経験しながら学べることです。一方で、診療経験の全く無い術者（学生）に対して、その患者役を体験することはそうないと思います。何をされるにも自然とお互いに緊張していました。思い出深い口腔外科での伝達麻酔実習時の痛みは耐え難いものでしたが、何よりも口を開けたままでいることが一番辛く感じました。相互実習を通して、診療中の患者さんへの気配りの大切さを身をもって感じることができました。ですから外来での見学実習では、ただ診療内容を見学するのではなく、先生方の患者さんへの対応の仕方も見学してみました。それは実に様々だと思いました。

本実習では先輩方からの引継ぎを終え、患者さんの病態把握をし、自ら治療計画を考えることから始まりました。今までの基礎実習のように、皆で同じことをしていれば良いのではなく、それぞれ患者さんが違うように診療内容も異なります。しっかり予習したつもりで診療に臨んでも、実際には不十分であったり、失敗したり、予期せぬことが起きたりもします。失敗した時や先生方からの厳しい指導を受けた時は落ち込みますが、それらは次へつながることでもありますので、気をとりにおして前向きに勉強しようと思います。苦労して学んだことというのは後で必ず自分にプラスになって返ってくると信じています。歯科医になる前の最後のこの1年間は、今までの学生生活の中で最も充実した期間になると思います。時々「何で歯科医を目指してるんだろう…」なんて思うこともあります。要は自分で決めた道ですから、悔いのないよう自ら積極的に学び、先生方を初め、患者さん達、友人達からも多くのことを学んでいきたいです。

ポリクリ実習を終えて

5年 大久保 将 哉

伝達麻酔を打たれる瞬間のあの何ともいえぬ緊張感を思い出す。患者さんの立場になって、物事を考えることの出来る非常に有意義な実習期間であったと思う。五年生になって、ポリクリを通して講義では絶対に身に付けることの出来ない大切なものを学んだ。それは、人に対する思いやる気持ちであった。僕らは当たり前の話だが、知識、技術、人生経験、あらゆる面において、我々を指導されていらっしゃる諸先生方の足元にも及ぶはずが無い。しかし、患者さんへ誠意を持って、今現在の持てる限りの自分の能力を誠心誠意ぶつける姿勢は今すぐにでも先生方と肩を並べることが出来ると思う。

ポリクリという実習期間はあまり意味が無いのではないかと思う時もあったが、どんな時も常に有意義極まりないというものなど存在するはずが無く、少なくとも僕にとっては、有意義な期間であった。ポリクリそして、総診での本実習において、我々を指導される先生方から様々なことを学ぶことが出来る、何も考えず、受身の姿勢でいれば何も得るものは無いだろう、しかし貪欲に知識や技術を盗めば成長も大きいと思う。反対に反面

教師となる場合もあるかも知れない。実習に対する姿勢は人それぞれであるので、様々な色をもった歯医者が生まれるのだろう。

歯学部へ入学した当初は大学生活六年間は非常に長い期間だと思っていた。気がついたら最終学年を迎える時がきた。我々は、大学へ入学すると同時に職業が決定されており、他の総合大学とは特異な一面がある。目的がはっきりしているのに、迷いや、不安は無いとは言えないが、充実した学生生活を送ってきたと思う。しかしその反面、視野が狭くなり、窮屈に感じることもあった。僕は、歯医者という職業にそれほど執着しておらず、全く違った世界へ足を踏み入れたいとも思っている。決して、自分が歯医者に向いていないと言っているわけではない。柔軟な考えを持っていれば、視野が広がり、悔いの無い人生が送れるのではないかと思っているからである。

学生生活最後の一年間、出来る限りの努力を行い、歯医者として少しでも早く一人前と言われる様になりたいと思う。

医療従事者としてだけでなく人として、絶対に持ち続けなくてはならない、人を思いやる気持ち。どんなに歯医者として、経験があり、知識があり、技術があっても、人を思いやる心を持ち合わせていないひとは、歯医者失格だと思う。